

第99回 定時株主総会 質疑応答

(回答者)

代表取締役 社長執行役員 櫻井昭彦

取締役 専務執行役員 (企画管掌) 川名康正

取締役 上席執行役員 (管理管掌) 長谷川智昭

常務執行役員 (営業管掌) 営業本部長 増田博久

<質問1>

電力事業において、当期は売上が減少しているが、現進行期は電力需給ひっ迫による老朽化火力の再稼働などにより、仕事が増えるのではないかと、何か大きなニュースはあるか教えてほしい。

<回答1>

(増田)

当社における電力事業につきましては、火力発電所のメンテナンスが大きなボリュームを占めておりますが、CO<sub>2</sub>削減の流れや老朽化した発電所の維持費用、石炭等の燃料の高騰から、客先では中々メンテナンスに予算を割くことが出来ないという状況が続いております。また、原子力発電所についても再稼働が思うように進まない状況であり、これが現進行期だけではなく翌期以降も続いていくだろうことが想定され、メンテナンスにどれだけの費用をかけていくか、不透明な状況です。

一方で、脱炭素の観点からもバイオマス燃料を使用した発電所への投資が増加しておりますので、そういった商談を取り込んで行きたいと考えております。

いずれにしても、当社の事業を進めることで電力の安定供給に資するということで、電力事業に力を入れて行きたいと考えております。

(櫻井)

少し補足しますと、現進行期には製鉄会社および化学会社向けの大型ボイラーの引渡しや、製紙会社向けの大型タービンの引渡しを控えております。

<質問2>

10年後の西華産業像という長期経営計画と2030年に向け長期経営ビジョンVIORB2030との関連性について教えてほしい。

また、その計画に対し本年4月からの新組織がどのように機能していくのか、教えてほしい。

## &lt;回答2&gt;

(川名)

本年5月に公表した長期経営ビジョン「VIORB2030」は、2017年に長期経営計画「10年後の西華産業グループ像」を策定した以降の脱炭素の流れの加速や持続可能な社会の実現の高まり、本年4月からのプライム市場への移行など内外の事業環境の大きな変化を受け、当社グループの持続的な成長と企業価値向上に資する、より具体性のある戦略を立てることを目的として策定しました。

従いまして、基本的な考え方としまして、「VIORB2030」は「10年後の西華産業グループ像」の目指すところと大きく変わりませんが、地球環境保全という具体性のある分野に取り組むという方向性を加味し、これを達成すべく財務戦略、人事戦略等各種機能の強化を行うというものになっております。

本年4月の組織変更につきましては、スピード感をもって意思決定や施策の実行にあたるということを目的とし、従来4つ存在した本部について、営業本部以外の本部を無くして組織をフラット化し、従来本部長が持っていた権限を各場所（部や支店）におろして、現場サイドでVIORB2030に資する活動を迅速に行っていく体制としております。

取締役会や経営会議にて権限を委譲した各場所の活動をしっかりモニタリングし、内部統制を含むコーポレートガバナンスの充実を図ることとしております。

## &lt;質問3&gt;

本年度の新入社員の採用人数は何人だったか、また初任給はいくらだったのか教えてほしい。

## &lt;回答3&gt;

(長谷川)

本年度の新入社員の人数につきましては7名でした。

また、初任給につきましては、昨年度実績より1,500円増加し21万5,900円でありました。

以上